

抗コレラ毒素抗体, ウサギ血清

64-007 100 μ l,

コレラ毒素はコレラエンテロトキシンとも呼ばれ、激しい下痢を伴う食中毒を起こす通性嫌気性のグラム陰性菌 *Vibrio cholerae* が産生する。**コレラ毒素**は分子量 27.2 kD の A サブユニット 1 分子と 11.6 kD の B サブユニット 5 分子からなる複合体である。**コレラ毒素**は B サブユニットを介して、標的細胞表面にあるガングリオシド GM1 に結合し、細胞内に取り込まれる。細胞内で分離、プロセスされた A1 が G タンパク質の一つである促進性 G タンパク質(Gs)の α サブユニットを ADP リボシル化し、アデニル酸シクラーゼの持続的な活性化を引き起す。

高度に精製された**コレラ毒素**をウサギに免疫して抗**コレラ毒素**抗体が作成された。

用途:

1. ウェスタンブロッティング (1/2,000 希釈) 他の用途は試されていない

抗原: *Vibrio cholerae* 569B 株の培地より精製されたコレラ毒素

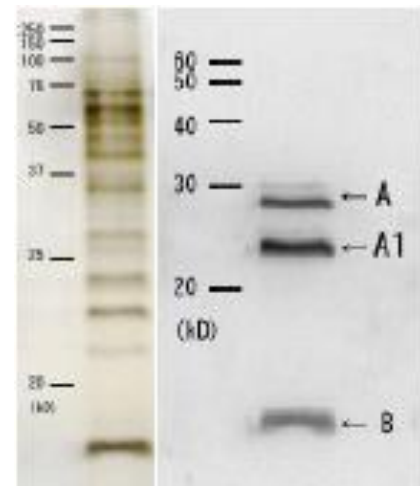
形状: 0.05% sodium azide 添加血清

保存: 4°C で出荷、-20°C で保存。凍結・融解は避けるべきだが、必要な時は急速に行う。

データリンク: UniProt KB [Cholera toxin](#)

文献:

1. Hirst TR and D'Souza JM In *The Comprehensive Sourcebook of Bacterial Protein Toxins* Alouf J and Popoff M ed. 3rd edn. p. 270-290 Academic Press (2006)
2. Finkelstein RA and LoSpalluto JJ "Pathogenesis of experimental cholera. Preparation and isolation of cholera toxin and cholera toxinoid." *J. Exp Med* **130**: 185-202 (1969) PMID: [4978880](#)
3. Iijima Y and Honda T "Enterotoxin of *Vibrio Cholerae*." In *Recent Advances in Marine Biotechnology* Fingerman M and Nagabhushanam R ed. Science Pub. Inc. **7**: 41 (2002)



図左 コレラ菌培養液の SDS-PAGE

Vibrio cholerae 569 株細胞抽出液を還元条件の下に電気泳動し銀染色を行った。

図右 コレラ菌培養液のウェスタンブロッティング

Vibrio cholerae 569 株細胞抽出液を還元条件の下に電気泳動し、この抗体を用いたウェスタンブロッティングを行った。A は未切断の前駆体、A1 は切断されたサブユニット、A2 サブユニット (5 kDa) はゲルから流れ出てみれない。B はサブユニット B である。